



日本司法書士会連合会 編
『わかる! 民法改正』

民法の知識がなくても理解できる、民法改正の最新情報

【評者】藤澤 治奈

本年3月、法制審議会民法（債権関係）部会
は、「民法（債権関係）の改正に関する中間試案」
を公表した。明治時代に制定されて以来、主要
な部分はほとんど改正されていなかった民法が、
ついに変わることになる。

実は、今回の民法改正には、2つのテーマが
ある。1つは、「社会・経済の変化への対応」
であり、もう1つは、「国民一般に分かりやす
いものにする」というものである。ここでは、
後者に着目してほしい。

明治時代に制定された現行民法は、決して国
民に向けて書かれてはいなかった。欧米列強に
日本の近代化を示すための法律の1つであり、
ごく一部の専門家の議論を経て制定されたも
のであった。ところが、これからの民法はそう
ではない。今回の改正では、民法は国民に向け
て書かれるという。そうであるとすれば、国民は、
新しい民法が本当に分かりやすいものになっ
ているのか、改正作業を見守る必要があるよう
に思われる。

とはいえ、民法を専門としない一般の国民に
とって、法務省から公表された中間試案を読み
解き、民法改正の内容を理解することは容易で
はない。そこで、まずは、本書を手にとって
みてほしい。本書は、民法さらには法律につ
いて知識がない者にとっても、非常に分かり
やすい作りになっている。その特徴は、3
点にまとめることができる。

第一の特徴は、民法改正を理解するための前
提知識が豊富に盛り込まれているという点で
ある。本書は、三部構成になっており、第一
部は「民法って何?」、第二部は「改正作業
はどうなっている?」と題されている。これら
を通じて、民法が我々の生活にどのように関
わっているの

か、今回の改正の経緯がどのようなものであ
ったのか等を知ることができる。さらに、具
体的な改正内容に踏み込んだ第三部でも、
一つ一つの用語に説明が付されていて、法
律の素人にとっても分かりやすい記述がな
されている。

第二の特徴は、豊富なイラストや図表であ
る。イラストからは、具体的な事案が想起
され、本文の内容が身近なものに感じられ
る。また、多数の当事者が登場する複雑な
法的問題については、図を参照すること
により、法律関係が一見して把握でき
るように工夫がなされている。

第三に、驚くべきコンパクトさをあげ
ることができよう。中間試案は、解説も
含めると、実にA4サイズで約200頁
の分量がある。これに対して、本書は、
全体で約80頁、改正内容に関する部
分は、イラスト部分を除けば30頁弱
になっている。民法改正に関する書
籍で、これほどまとまったものに
出会ったことがなく、評者は、
本書を手にとったときに、まず
この点に感銘を受けた。さら
に、Q&A方式が採用されて
いることから、各項目の冒頭
部分を読むことで、要点をつ
かむことができるようになって
いる。

なお、本書が出版されてから中間試案が
発表されるまで、さらには、中間試案の
後にも、民法改正の議論が常に動いて
いることには注意が必要であらう。当
初議論されていた、消費者契約法の
民法への取込みやファイナンス・リ
ース契約の創設といった内容は、中
間試案からは落ちていない。

本書を入り口として、今後の民法改正
をめぐる議論にもキャッチアップして
いってほしい。
(中央経済社、A4判88頁・定価987円(税込))
(評者は立教大学法学部准教授)